

令和2年度保護林モニタリング調査結果（一覧表）

【資料3-1】

* 令和2年度保護林モニタリング調査で保全エリア・柵設置箇所を選定、令和3年度以降柵設置予定（【資料4-1】参照）

保護林	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング間隔 【選定理由】 ※マニュアル P10参照
	前回調査	R2年度			
1 あや 綾森林生態系保護地域*	【H22】 2	3 (3~4)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のイチイガシ・コジイ・イスノキ等の健全な生育が確認された。 ・1プロットでマテバシイのカシノナガキクイムシ被害が確認された。 ・低木層はシカの忌避植物が優占し、林内の見通しは良かった。 ・草本層は植被率がきわめて低く、貧弱であった。 ・鳥類の希少種としてヤイロチョウが確認された。 ・大雨の影響で昆虫相が特に貧弱であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を行う。 	5年 【オ】
2 たかくまやま 高限山生物群集保護林	【H27】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象種はイスノキ、ホソバタブ、スダジイ、マテバシイが確認されたが、<u>冷温帯落葉広葉樹のブナの後継個体は確認されなかった。</u> ・1プロットのみでズズタケの生育が確認された。 ・台風の強風による風害や大雨による斜面崩壊が確認された。 ・<u>自動撮影カメラに多数のシカが確認され、雌生体の群れも確認された。</u> ・希少種として、コシジロヤマドリが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護林内でシカが確認されたことから、下層植生の被害発生阻止を図るため、シカの嗜好植物や林冠構成種の後継個体の生育が確認された箇所への優先的な植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【キ】
3 ひこさん・うぐいす 英彦山・鶯モミ等	【H27】 3 (2~4)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のモミの健全な生育が確認された。 ・後継個体はモミが確認された。 ・<u>低木層の種構成に偏りが見られた。</u> ・<u>草本層は植被率が低く、貧弱であった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、既存植生保護柵の維持・管理とともに、新たな植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
4 おおねじ 大根地アカガシ等	【H22】 0	2 (1~2)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のアカガシやその他広葉樹の健全な生育が確認された。 ・後継個体はタブノキ、ホソバタブ、スダジイが確認されたが、調査箇所ではアカガシは確認されなかった。 ・<u>アオキの衰退が顕著で、林内の見通しがやや良くなりつつある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の被害拡大阻止を図るため、アオキの衰退が確認された箇所への優先的な植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
5 じょうやま 城山タブノキ等	【H22,25】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のタブノキの他、ウラジロガシ、イスノキその他広葉樹の健全な生育確認された。 ・後継個体はタブノキ、ホソバタブ、ウラジロガシ、スダジイが確認された。 ・低木層には小径木のアオキ（シカの嗜好植物）が繁茂していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として人手を加えず、自然の遷移に委ねた保護管理を行う。 ・今後のシカの生息状況と定着状況を注視し、必要に応じてシカ被害対策の実施を検討する。 	10年
6 うきだけ 浮岳アカガシ遺伝資源	【H22】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のアカガシが確認されたが、<u>カシノナガキクイムシによる枯損が2本確認された。</u> ・後継個体はアカガシ、スダジイ、タブノキが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として人手を加えず、自然の遷移に委ねた保護管理を行う。 ・今後のシカの生息状況と定着状況を注視し、必要に応じてシカ被害対策の実施を検討する。 ・カシノナガキクイムシの被害については、今後とも注視するとともに、危険木が生じた場合はその対応策を検討する。 	10年
7 やまずみ 山砥スダジイ等	【H22】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体はイヌガヤ、タブノキ、ヤブニッケイ、イヌガシが確認された。 ・スダジイの大径木が台風により倒伏していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として人手を加えず、自然の遷移に委ねた保護管理を行う。 ・今後のシカの生息状況と定着状況を注視し、必要に応じてシカ被害対策の実施を検討する。 	10年

保護林	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング間隔 【選定理由】 ※マニュアル P10参照
	前回調査	R2年度			
8 フクレギシダ	【H26】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のフクレギシダが3地点で確認された。 ・後継個体としてバリバリノキ、スタジイ、ホソバタブ、イスノキが確認された。 ・希少種として、チャンチンモドキの高木が複数本確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として人手を加えず、自然の遷移に委ねた保護管理を行う。 ・今後のシカの生息状況と定着状況を注視し、必要に応じてシカ被害対策の実施を検討する。 	10年
9 くぎの 久木野アカガシ等遺伝資源*	【H22】 0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>保護対象樹種のアカガシとウラジロガシにカシノナガキクイムシによる被害が確認された。</u> ・後継個体としてアカガシ、イチイガシ、ツブラジイ、ホソバタブ、イスノキ、バリバリノキが確認された。 ・<u>以前、確認されていたアオキの生育が確認されず、種構成に変化が生じていた。</u> ・<u>低木層でホソバタブの樹皮剥ぎ被害が顕著であり、ほぼ全ての個体が枯損している箇所があった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復及び被害拡大阻止を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を行う。 ・カシノナガキクイムシの被害については、今後とも注視するとともに、危険木が生じた場合はその対応策を検討する。 	5年 【キ】
10 おこびら 大河平モミ等遺伝資源	【H22】 0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のウラジロガシの一部がナラ枯れにより健全性を欠きつつあった。同じく保護対象種のミズメは今年度確認されなかった（過年度の確認は1本）。 ・後継個体はタブノキ、ホソバタブ、イヌガシ、モミが確認された。 ・草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
11 ごんげんだけ 権現岳シオジ等遺伝資*	【H22】 0	1 (1~2)	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての保護対象樹種の健全な生育が確認された。 ・保護対象種の後継個体は確認されなかった。 ・<u>シカの忌避植物であるアブラチャンやシロモジが優占している状況。</u> ・<u>標高1000m以上において低木層構成種のスズタケが開花枯死。付近の尾根沿いでシカの痕跡が確認された。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の被害発生阻止を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を行う。 	5年 【オ、キ】
12 ぼう 坊ガゾルサワグルミ等遺伝資源	【H22】 0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のサワグルミ及びハリギリは健全な生育が確認された。 ・後継個体はハリギリが確認された。 ・<u>シカの忌避植物であるアブラチャンやチドリノキが優占している状況。</u> ・<u>シカの忌避植物であるニシノヤマタイミンガサが繁茂している状況。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
13 くろだけ 黒岳ミズメ等遺伝資源	【H22】 0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のイスノキ、ミズメ、ブナ、イタヤカエデは健全な生育が確認された。 ・後継個体はアオダモ、コハウチワカエデが確認された。 ・<u>保護対象樹種の後継個体は確認されなかった。</u> ・<u>シカの忌避植物であるニシノヤマタイミンガサが繁茂している状況。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の回復を図るため、保護林周辺におけるシカ捕獲の継続、新たな植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
14 かみの 神野イスノキ遺伝資源	【H23】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のイスノキは健全な生育が確認された。 ・後継個体はイスノキが確認された。 ・希少種のクマタカが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として人手を加えず、自然の遷移に委ねた保護管理を行う。 ・今後のシカの生息状況と定着状況を注視し、必要に応じてシカ被害対策の実施を検討する。 	10年
15 やまぞえ 山添タブノキ等遺伝資源	【H23】 0	1 (0~2)	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての保護対象樹種の健全な生育が確認された。 ・後継個体は全ての保護対象樹種が確認された。 ・<u>1プロットでシカの新しい糞が確認された。</u> ・<u>自動撮影カメラで多数のシカが確認された。</u> ・希少種のクマタカが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下層植生の被害発生阻止を図るため、シカ被害レベルが0から2へ移行した箇所箇所への優先的な植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ、キ】